

地方創生最前線

生涯活躍のまち

2025.4

61

特集 地方創生2.0

地方創生2.0は総力戦で取り組もう

一般財団法人地方活性化センター理事長／内閣官房参与(地方創生担当) 林崎 理さん ————— 3

アクティブシニアの移住から全員活躍へシフトした住まい

～長野県佐久市の生涯活躍のまち施策とプロジェクト～(渡邊正人さん×藤田将大さん) ————— 5

BOOK REVIEW

多動脳 ADHDの真実 (アンデス・ハンセン著 久山葉子訳 / 新潮新書) ————— 7

アクティブシニアの移住から 全員活躍へシフトした住まい ～長野県佐久市の生涯活躍のまち施策とプロジェクト～

ふじた まさひろ
藤田 将大さん
佐久市企画部移住交流推進課
移住推進係主任



わたなべ まさと
渡邊 正人さん
佐久市企画部移住交流推進課
課長補佐(兼)移住推進係長



——佐久市の生涯活躍のまち事業はどのように始まったのでしょうか。

渡邊 地方創生が始まる以前から、佐久市は医療制度の充実した、「びんびんころり」のできる健康長寿のまちとして知られていました。移住される方もその点を重視したシニアの方が多い状況でした。そうしたベースがあったので、地方創生の施策のひとつである、CCRC＝生涯活躍のまちは、首都圏のアクティブシニアの方々に来ていただき、活躍しながら、安心の医療制度を使ってもらおうという点で、当市の方針性と合致したのです。

——市内臼田地区にある佐久総合病院を核とした農村型生涯活躍のまちモデルですね。

渡邊 佐久総合病院は地域の医療を支える存在です。臼田地区に限らず、佐久市役所の近くでは急性期と高度専門医療を担う、佐久医療センターを運営しています。同院に勤務していた医師が個人医院を開業し、かかりつけ医になるケースもあります。豊かな医療の資源を背景にした、アクティブシニア向けのサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)^{※1}を整備したのですが、なかなか入居者が集まらない状況が続きました。

※1) ホシノマチ団地。臼田地区に立地する佐久市営下越団地B棟24戸のうち、16戸をサービス付き高齢者向け住宅として活用。

——地方創生が始まった当初、佐久市への移住に関心がある首都圏の高齢者は多かったものの、実際の移住までは踏み切れないという印象がありました。

渡邊 元気な高齢者にとって、サ高住のサービス部分の費用は——将来の安心のためとはいえ——余計な支出と受け取られたのかもしれませんが。同じサ高住であれば、佐久平駅周辺に開発されている民間のものの方が、生活の利便性の面で需要が高かったのだと思います。

ホシノマチ団地は佐久市の直営ではなく、民間事業者である「佐久市臼田地区活性化共同企業体」(代表法人は株式会社みんなのまちづくり。以下、「みんなのまちづくり」)が事業主体となったプロジェクトです。とはいえ佐久市が事業主体に20年間の運営継続を求める協定を結んでおり、それが可能なのかという不安はありました。

——現在のような形になったきっかけは何だったのでしょうか。

渡邊 生涯活躍のまちに係る国の施策が、首都圏のアクティブシニアの地方移住から全世代・全員活躍型へシフトしたことです。令和元(2019)年11月に16戸でスタートしたホシノマチ団地は当初、50歳以上の方を入居の対象としていました。令和3(2021)年4月に「みんなのまちづくり」が年齢条件をなくして、家賃やサービ

ス料も見直しのお試しプランを提供することで、少しずつ入居者が増えていきました。

——どのような方々が入居されたのですか。

渡邊 佐久市に隣接する佐久穂町の学校法人茂来学園が運営する大日向小学校・中学校に子どもを通わせたいという若い世代です。同法人のコンセプトであるイェナプラン教育^{※2}に共感して来られるのですが、佐久市内にもスクールバスが走っていることや賃貸物件の豊富さなどから居住地として佐久市を選択いただくケースが一定以上あり、そのなかで比較的學校から近いホシノマチ団地を住まいとして選んでくださいました。昨年4月に臼田地区に開校された私立のさやか星小学校も特徴のある教育理念を掲げており、同校に子どもを通わせたいという方も入居されました。

※2) 子どもたちが自ら考え行動し、他者を尊重、互いに協力し合う姿勢の育成を目指す1920年代にドイツで始まった教育モデル。

すると自分の子どもも上記の学校に通わせたいと思うファミリー層を呼ぶようになり、令和6(2024)年3月にホシノマチ団地は満室。同年4月からは同じ建物の空き部屋5戸をホシノマチ団地として増室しました。入居者が代わることもあります。空きが出ると、「みんなのまちづくり」が入居者募集をするとともに、見学に訪れる方には入居者も案内の対応をされるそうです。現在の管理人さんはホシノマチ団地の入居者第1号でもあり、ホシノマチ団地に限らない佐久市への移住についての相談に乗ってくれるので、移住を検討する方の安心にもつながります。



ホシノマチ団地外観



ホシノマチ団地に隣接する地域交流拠点 shoku_ba ホシノマチオフィスの住民の交流

——ホシノマチ団地の入居者と市営団地に住んでいる方との交流はあるのでしょうか。

渡邊 下越団地はA棟ならびにB棟も市営住宅の 카테고리 だったのですが、B棟は特定公共賃貸住宅^{※3}となっています。A棟に比べると賃料が高く、入居が進まなかったことも、B棟の部屋をホシノマチ団地にした背景にあります。現在はホシノマチ団地も満室になっており、A棟およびB棟市営住宅の住民から団地全体の賑わいが戻ったという声も聞かれ、自治会を担ってくれる方が増えたことも喜ばれているようです。

※3) 中堅所得者世帯向けに地方公共団体が建設・管理する賃貸住宅。

——官民連携のありかたについての課題は何だと思われますか。

渡邊 行政は即断即決が難しい組織です。アイデアや発想が及ばないところもあります。「みんなのまちづくり」はまちの賑わいづくりのノウハウをもって、いろいろな提案をしてくれるので、それを受けて行政は何かできるかを考えるという関係が基本になっています。

——私はかつて大阪に住んでいるシングルマザーの方に同行して臼田地区を歩き、関係機関に移住相談をしたことがあります。彼女は2歳になるお子さんも連れてこれ、まちなかでベビーカーを押して歩いていると、道行く人がみんな子どもとお母さんに声をかけてくれるんですね。それがとてもうれしいとお母さんが言っていたのが印象的でした。

藤田 佐久の人は、外で人に会ったら、相手が誰であろうと挨拶するのが普通です。私がジョギングしていると、マラソン大会でもないのに、近所の子どもに「がんばって」と声をかけられるくらいですから(笑)。

——今後の生涯活躍のまちの展望をお聞かせください。

渡邊 当面は下越団地B棟全体がホシノマチ団地となることです。将来に向けた具体的な計画はありませんが、第2、第3のホシノマチ団地ができていくと思っています。また、ブルーン栽培発祥の地といわれる臼田地区では、ホシノマチ団地の住民もブルーンの栽培に取り組んでいると聞いています。こうした地域の活性化につながるような活動が引き続き展開できるといいですね。

佐久市は暮らしやすいまちを目指しています。そのための医療であり、子育て環境であり、生活インフラの充実であるわけで、まずは地元の方々の満足度を高めること。それが結果として移住者の定住につながると思っています。

(聞き手 芳地隆之)



ホシノマチ団地の皆さん



ホシノマチオフィス外観